

言語教育コース 国語教育系

コース紹介詳細は
Webページへ



取得免許(卒業要件)	
小学校一種 + 中学校二種(国語)	または
中学校一種(国語) + 小学校二種	
学生が近年取得したその他の免許	
高等学校一種(国語、書道) など	

あらゆる観点から国語教育をとらえ、追究する

国語教育系では、学校で学ぶ「国語科」にまつわるさまざまな問題を追究します。そのために、日本語学、日本文学(古典・近代)、漢文学、書写・書道、国語科教育学、日本語教育学など幅広い分野の学習・研究を通して考えていきます。

3年次からは、一人一人が関心のある分野について深く研究し、卒業論文に取り組んでいきます。それぞれの分野のスタッフがそろっていて、きめ細かい指導が受けられることが国語教育系の「強み」です。卒業生の多くは、小学校、中学校の国語の免許だけでなく、高校の国語や書道の免許も取得しています。また、大学で培った教科の専門性を生かして、小学校、中学校国語、高校国語の教員として、教壇に立って活躍しています。



● カリキュラム・特徴ある授業や取り組み ●

一年生では全学共通科目を中心に、学部入門ゼミ等の学部共通科目、初等国語科教育学など小学校の教科教育学を履修します。二年生では国語学、日本文学(古典・近代)、漢文学、書写書道等の専門科目に加え、中等国語科教育学法を履修、更に国語教育の演習もスタートします。三年生からは専門科目の演習に加え、各自一つの研究法(卒論ゼミ)を履修します。四年間を通して、専門的力量をもった国語教員の基盤を養います。

● 主な授業科目

1年次	2年次	3年次	4年次
学部入門ゼミ 初等国語科教育学 日本語教育概論	中等国語科教育学法 国語学概論 日本古典文学史 日本文学概論 漢文学概説 書写演習	国語学演習 古典文学演習 近代文学演習 漢文学演習 書道科教育学 国語科授業開発演習	国語学研究法 古典文学研究法 近代文学研究法 漢文学研究法 書写・書道研究法 文学教育研究法

中等国語科教育学法

中学・高校の国語科の授業づくりについて学びます。生徒が授業を通して、言葉について考え、言葉の世界の魅力や奥の深さを感じとれるようになるために、教師がすべきことを考えます。教材価値を生かす教材研究や、多様な考えを引き出し、深めるための授業の展開、発問の在り方について、意見交換しながら考察していきます。



国語学演習

平安時代の説話『今昔物語集』を題材に、ことばの意味の変化や当時の使い方について、学生が調べ発表する授業です。今と変わらないように見えることばが、実は平安時代には全く違う意味・文脈で使われることがあります。気づかなかったことに立ち止まり、調べていくことで、作品の魅力に気づけるようになります。



MESSAGE

学生メッセージ 3年生 M. F. さん (静岡県立三島北高校出身)

日々楽しく国語について学べる環境！

国語教育系では、教育学・文学・書写をはじめ国語を形成する幅広い専門的な分野を深く学びながら、教材研究や模擬授業等の実践がしっかりとできる充実した環境が整っています。また、先生方のサポートが手厚く、先輩や同じ目標を持つ同級生から刺激をもらえます。国語について学ぶうえでここは最高の環境だと思っています。ぜひ一緒に学びませんか。



教員メッセージ 清水文博先生 (専門分野: 書写書道教育)

さまざまな対話を通して自分と向き合ってみましょう。

書道では、昔の書を見て書くこと(これを臨書と呼んでいます)により、古人と対話しているような感覚になることがあります。教員を目指すにあたっては、自己や他者等とのさまざまな対話があると思います。手で書くことによって対話し、自分と向き合うことを書写書道の学びを通して考えてみましょう。



研究紹介①

尾形大

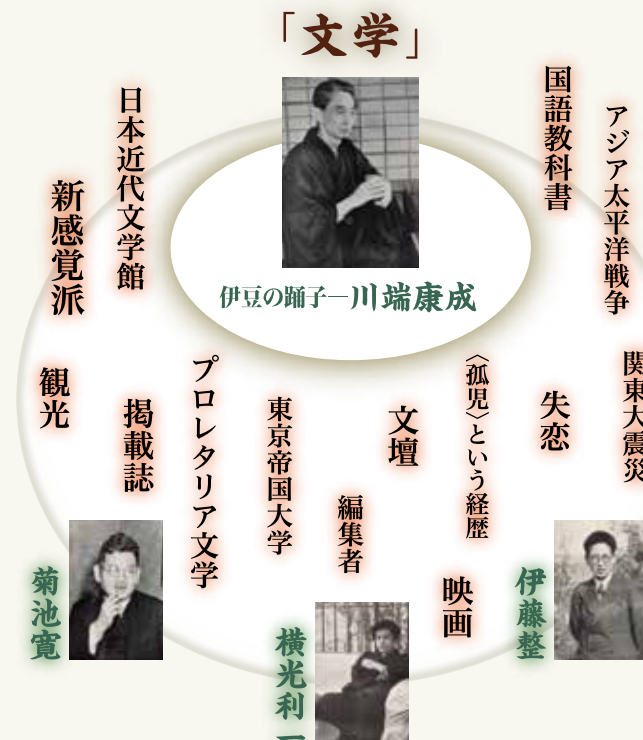
～研究テーマ～
日本近代文学

尾形 大 Ogata Dai
早稲田大学教育学部卒業後、大学院に進学し、あわせて高等学校で教壇に立ちました。日本近代文学の作られ方の研究をとおして、国語の授業を豊かに発展に導くことにしています。



「文学」を形成する要素の広がりを目指す

一般に文学はひとりの作家によって生み出された個人の創作物と考えられがちです。しかし、その「作家」や生み出された「文学」とは、その時々の歴史的社会的背景を含みこんで形成された「集積」にほかなりません。たとえばある小説を考える際に、同時代の社会・政治・文学状況はもちろん、作家個人の経歴や作家間のネットワークといったさまざまな影響関係に眼を向けることが重要です。



研究紹介②

伊崎孝幸

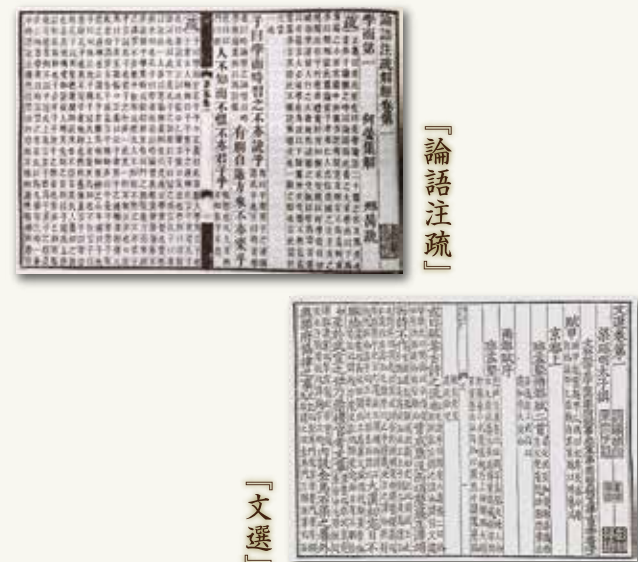
～研究テーマ～
唐代の文学および文学論

伊崎 孝幸 Izaki Takayuki
中国古典を題材としながら、伝統的な手法だけでなく他国の古典文学や近代文学との比較、更には現代の文学理論の活用など、多角的にテキストを分析。古典の新たな価値を見出すべく日々研究に取り組んでいる。



古い新しい

漢文学は、かつては日本でも知識人にとって必須の教養でした。先人たちが学んできた中国古典を読み解き、その多様な思考や感性に触れることは、今を生きる我々自身の姿を見つめ直すことであり、現代の価値観を相対化することにもつながります。例えば「詩」は、その字数の少なから、我々はいく情報量の少ないといったことを考えがちですが、作品を分析することで見えてくるのは、様々な先行作品を取り入れつつ、自身の思いを紡ぎ出してゆく詩人の技術の高さであり、一字一句に込められた作者の思いの深さです。現代と比べても、むしろ豊かな表現世界がそこに広がっているのです。私の専門とする唐代後半期の文学には、こうした特徴が顕著に表れています。



上のような漢文資料を正確に読むことが文学研究の基本ですが、読み取った内容をどのように解釈するのか、他の資料や作品とどのように関連づけてゆくのかといった考察も同じように重要になってきます。

研究紹介③

日本語教員養成プログラム

～日本語教育を学んで世界とつながろう！～



「日本語教員養成プログラム」は、日本語教育を学ぶ副専攻のプログラムです。グローバル化していく現代社会において、国際性を備えた人材を育成すべく、2008年に山梨大学に開設されました。外国にルーツを持つ子どもの教育に携いたい人、国際交流や異文化理解に関心のある人、日本語教育を学んで世界とつながっていきませんか。(文責: 仲本 康一郎)



外国につながる子どもと日本語指導